

科目名 (Eng)		データベース論 (Foundation of Database Systems)								
担当教員		湯川 崇								
対象学年等	学科・専攻	学年	授業期間	区分	単位数	時間数	分野	形態	学修単位科目	
	ビジネス コミュニケーション学 専攻	1	前期	必修	2	30	専門	B	○	
目標基準 との対応	福島高専の教育目標との対応: (B-1). (B-4情). (C-2). (D-1). (E-2).									
	修了時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応: 2). 3). 4). 5).									
		JABEE基準1 (1)との対応: d(1), d(2), d(4), e, g, h								
授業の概要と方針		データベースの仕組みや役割を示すとともに、実践を通してリレーショナルデータベースの基礎と使い方を学習する。								
到達目標		①データベースの仕組みや役割を理解する。 ②リレーショナルデータベース・SQLの基礎を理解する。 ③基本的なデータベースを作成し操作できるようになる。								
授業計画										
	週	授業項目	理解すべき内容				事前学習			
前期	1	データベースの基礎知識	データベースとは Accessとは				課題を出すので、 その都度実施すること			
	2	テーブルの操作	関係演算 正規化							
	3	データベースの作成	一般的な作成手順							
	4	データベースの構築	テーブルの作成 リレーションシップの作成							
	5	商品検索システム (1)	システム概要 テーブルの設計							
	6	商品検索システム (2)	データベースの作成 テーブルとリレーションシップの作成							
	7	商品検索システム (3)	クエリの作成 フォームの作成							
	8	書籍管理システム (1)	システム概要 テーブルの設計							
	9	書籍管理システム (2)	データベースの作成 テーブルとリレーションシップの作成							
	10	書籍管理システム (3)	フォームの作成 レポートの作成							
	11	販売管理システム (1)	システム概要 データベースの作成							
	12	販売管理システム (2)	テーブルとリレーションシップの作成 フォームとレポートの作成							
	13	演習課題	資格管理システムの作成							
	14	SQLの基礎	SELECT文の基本操作							
	15	SQLの操作	複数の票からの表の作成							
試験について		中間試験は実施しない。期末試験は100分間の試験を実施する。 再試験受験の条件: 全ての課題を所定の日時までに提出してあること。								
評価方法		課題・小テストを50%、定期試験を50%とする。								
教科書		「Accessデータベースの基礎と構築」実教出版								
参考書										
関連科目										
履修上の注意		授業の理解度を確認するために課題を出す。自学自習の確認方法: 授業の予習或いは復習などの課題プリントを配布し、定期的に提出を求める。								